

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272700556		
法人名	医療法人社団 千葉医心会		
事業所名	グループホームじょんから		
所在地	千葉県我孫子市布佐3078-9		
自己評価作成日	令和4年12月10日	評価結果市町村受理日	令和5年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-1		
訪問調査日	令和5年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来る限り入居者様に楽しんで生活していただけるように、感染症対策を行いながら、行事やレクリエーションに力を入れています。年間行事が全て同じ内容にならないように見直し、趣向を凝らして少しでも違う雰囲気のある行事になるよう心掛けています。年間行事だけではなく、誕生日にお祝いの会を開催したり、毎日レクリエーションの時間を設けて楽しんでいただいています。毎日の食事に関しては、美味しい食事が提供できるよう食品納入業者と連携をとっております。入居者様のその時々々の体調や症状にあった形態の食事を考え提供し、嗜好に合わせて臨機応変にメニューを変更するようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は「地元の人達と交流を持ちながら、明るい家庭的な雰囲気を目指す」としてホーム内に掲示している。自立支援として部屋や床の掃除、洗濯物たたみ、食器拭きなどを職員が見守りながらおこなっている。残存機能の活用を促すよい取り組みだと思われる。訪問診療が月2回、訪問歯科が月1回、看護師の職員が週3回、健康管理をしている。ホームは明るい雰囲気を利用して歌を歌うことが多く、歌詞を大きな字で壁に書いていたり、歌詞カードを配布している。また、口の運動であるパタカ体操ほか軽い運動などもしている。行事には積極的に取り組んでおり、計画に沿って花見やコスモス見学をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元の人達と交流を持ちながら明るい家庭的な雰囲気を目指すという運営理念を掲げ、朝礼や職員会議にて確認し、職員一人一人が意識し、実践できるよう努めています。	理念は「地元の人達と交流を持ちながら、明るい家庭的な雰囲気を目指す」として、ホーム内に掲示している。朝礼や職員会議などで確認している。言葉使いの工夫や無理強いをしないなど家庭的な雰囲気づくりに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し回覧板を回し挨拶を交わしています。地域のイベントの協賛として駐車場を解放し夏祭りに焼きそば、かき氷を提供し、餅つき会には豚汁を提供し交流を深めています。	町内会に参加している。敷地の駐車場で町内会の夏祭りや餅つきなどをおこなっており、交流をしている。社会福祉協議会の地区会議などでグループホームの紹介をして、認知度を高める工夫をしている。近隣住民からの介護相談もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	布佐地区社会福祉協議会の委員となり、月1回の会議に参加し、グループホームの理解を求めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議での報告や意見をいただき、職員会議で議題提供して話し合い、サービスの向上に活かせるよう努めています。コロナ禍においては書面上にて開催しています。	今年度は書面での報告としているが、例年の運営推進会議には家族、自治会長、民生委員、市の高齢者支援課担当者、地域包括支援センター担当者などが参加している。利用者および職員の状況、行事報告、ヒヤリハット報告などを行っている。	書面でのやり取りの機会に利用者家族をはじめ、広く参加者からの意見を受け付けて、ホームからフィードバックするなど書面であっても双方向の会議としての活性化を図ることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話やメールでのやり取りが主ではありませんが、諸手続き等は役所に赴き、担当者からアドバイスをいただいております。その他運営会議にも出席いただいておりますので、意見交流に努めています。	介護保険についての相談などで市の高齢者支援課とやりとりをしている。地域包括支援センターとは運営推進会議を介して相談し、意見をもらっている。市のグループホーム連絡協議会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げ、職員会議にて入居者の現状について検討し、記録をしています。施錠については、1階の出入り口は時間で施錠しています。2階の出入り口は安全を重視し行っています。	「身体的拘束等適正化のための指針」を策定し職員に年度の研修をして周知している。現在、車いすの抑制帯およびセンサーマットの使用について、家族に説明し同意を得ており、対応と記録作成をおこなう検討をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけではなく、言葉による虐待もないよう心掛け、職員会議や学習会にて職員の理解を深めています。日頃からトイレ誘導、入浴、更衣時等に身体の観察を行い、報告をしています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会にて理解の場を持ち、関係機関との連絡体制を取っています。現在入居者2名に成年後見人がついています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時、契約時に十分な説明を行い理解、納得していただけるように努めています。料金改定時等には契約書別紙にて説明し同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しておりますが、ご利用はほとんどありません。面会時やお電話等で意見やご要望をお聞きしています。また、意見を聞きやすい環境作りにも努め、その都度状況説明を行っています。	家族からの意見や要望は、面会時や介護計画策定・変更の面談などで聞いている。コロナ禍で面会が出来なかったため、再開の要望が多くあり、オンライン面会の環境を整備している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や、毎月の職員会議時に意見を出し合ったり、個別に意見を聞き、業務に反映させている。今年はコロナ禍で難しいですが、定期的に親睦会を開き、屈託のない意見を述べられるようにしている。	職員には毎月の職員会議で意見を出してもらっている。また日々の業務に管理者も入り、職員と対話して意見や要望を聞いている。食器のしまいやタオルの使い方など細部についても意見交換し改善をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きやすい環境を整えるために、労働時間や勤務体系は希望に添えるよう心掛けています。資格手当を取り入れ、職員の意欲向上につなげるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に法人内外の研修等を紹介し、希望者には研修に参加できるよう配慮しています。学習会等にて学ぶ機会を持ち業務の理解を深めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回の関連施設の6つのグループホームの管理者会議で、議題を決め意見交換を行っています。今年はコロナ禍で中止となっていますが3ヶ月に1回、市のグループホーム分科会の勉強会に参加し交流を図っています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の面談にて知り得た情報を活かしています。信頼関係を築く事が大切な事を日々職員全員に説明し理解を深めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様同様に、信頼関係を築く事が大切である事を職員全員に理解してもらい、丁寧に接するよう心掛けています。不安な事や要望等はできるだけ解決できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の状況を日々観察し、その時々で必要な支援を見極め、ご家族と話し合い対応できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人のできる事を見極め、洗濯物たたみや食器拭き、掃除等役割を持っていただきできる事は行っていただいております		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時等に一緒にお話しをしたり、居室担当者からの要望をお話しし、ご家族と協力して入居者様を支えて行けるよう心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙や電話等活用しご家族とのつながりを大切にしています。かかりつけ医の病院の通院もご家族や職員対応のもと行っています。ご本人の友人の来訪に関しては暖かく見守り、協力体制を取っています。	間隔をしっかりと開けて面会をおこなっている。オンライン面会も可能である。家族はもちろん利用者の友人の来訪もある。年賀状や手紙が来た場合には返事の電話のサポートをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が回り合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格等を把握し、入居者同士の相性等を考慮した上で、食堂の席を決めています。職員が仲介の立場になって良好な関係を維持できるよう支援しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も「何かございましたらいつでもご相談下さい」と伝えています。関連施設に移動された方やご家族からの相談や近況報告を受けています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にご本人、ご家族から意向等を確認し情報を把握に努めています。入居時や施設に慣れてきた時など時間を設け、散歩や嗜好品等、可能な限りご本人の意向を取り入れられるよう心掛けています。	入居契約時に利用者・家族の意向、生活歴などのアセスメントをする。また日常の会話や表情、仕草から意向を汲み取り、記録に残すとともに職員間で共有している。本人本位の生活となるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から話を聞き情報を得ています。極端に環境に変化が生じないよう、馴染みのものや家具等を自室に置いていただくようにしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態、様子観察等を行い、心身状態の変化の把握に努め、朝の申し送り時やケース記録連絡帳に記載し共有を図っています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、居室担当者、介護支援専門員等と話しをし意見を反映させて計画書を作成しています。計画書やモニタリング等は職員も把握できるようケース記録にファイリングしています。	毎月の職員会議で個人記録をもとにケースカンファレンスをしている。介護計画は6ヶ月に1回見直しする。急な変化が生じた際は都度カンファレンスをおこない、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に記入し、介護計画に行かせるよう努めています。また、職員会議等で入居者状況を話し合い実践できるようにしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望で整体院への通院対応を行っていた事もあります。現在はいませんが、要望があれば対応します。下肢筋力低下防止のため歩行練習や散歩の同行を行っています。			

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣者等のボランティアを受け入れていません。社会福祉協議会における催し物等の情報により支援体制を検討し参加を促している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を尊重し、整形外科、内科、歯科、眼科等の受診をしています。かかりつけ医に月2回、歯科医に月1回訪問診療を受けています。	月2回の訪問診療、月1回の訪問歯科診療、看護師の職員による週3回の健康管理がおこなわれている。専門医の受診は家族に同行をお願いしている。家族対応が難しい場合はホームが受診に同行する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態把握に努め、常に看護師と連携を取り、相談や看護支援を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のケースワーカーと連絡を密にとり、情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に合わせて、随時ご家族や主治医、看護師と連携を図り、その時の状態にあった支援ができるよう努めています。ターミナルケアの学習会も行っています。	入居契約時に、医療連携体制と重度化対応・終末期ケア(看取り)について、ホームの方針を説明している。ターミナル期には医師の説明のもと、家族と話し合い、同意を得たうえで看取りをおこなう。ホームでの看取りの実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会等で学び、緊急時にも対応できるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	個々にあった誘導方法、防災頭巾の着用等、年2回防災訓練を行っています。防災設備の定期点検や食料の備蓄を行っています。	年2回、消火訓練・避難訓練をおこなっている。日中・夜間の想定がある。備蓄食料の在庫表を作成している。ハザードマップをもとに避難場所の確認をしている。停電時の体制について検討をしている。	事業継続計画(BCP)策定の際、備蓄食料の在庫表に加え、停電時の必要物品ほか、防災用品・設備の一覧表なども作成しておくとともに良いと思われる。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を尊重したケア、言葉掛けに努めており、学習会や職員会議で対応方法を周知したり、職員に対し個別指導も行っていきます。	不適切と思われる声かけが見られた場合は、管理者が都度、職員に注意している。また、毎月、職員学習会をおこない、接遇を学ぶ機会を作っている。プライバシーを損ねないケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人からの思いや希望が表せない方もいらっしゃるが、声掛けの工夫や、表情や仕草から察知するよう、またできるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールは決まっているが、無理強いをする事なく、新聞を読んだり、パズル、塗り絵、テレビ鑑賞等、ご本人の希望に沿った支援ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人やご家族にも協力していただき、ご本人の意向をできるだけ尊重した支援を心掛けています。定期的に訪問理美容を利用しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやテーブル拭き、簡単なおやつ作り等できる事を手伝っていただきながら、その人の意欲を引き出しています。職員も一緒に食事を取り、楽しい雰囲気の中で食べられるように努めています。	委託業者が食材を納入し、ホームの職員が調理をしている。行事食は利用者の希望に沿って提供している。誕生会で寿司のテイクアウト、クリスマスに職員と利用者がケーキを作るなど、楽しい企画が立てられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量チェック表にて、毎日の食事、水分摂取量を把握しています。食事や水分摂取量が少ない時には栄養補助食品の提供やまめに水分を提供するなど、水分確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を学習会で学び、毎食後のうがい、歯磨き、義歯洗浄、歯間ブラシの使用など個々に応じた口腔ケアの実践を行っています。月1回の訪問歯科診療で、職員の指導も受けています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や申し送り等で情報を共有し、排泄パターンを把握し、適切な支援ができるよう努めています。	排泄チェック表をもとに、個々のタイミングを職員間で共有してトイレ誘導をしている。夜間の排泄が多くなる原因について話し合い、日中帯のトイレ誘導のタイミングを工夫するなど、排泄の自立に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の有無を確認し、排泄チェック表を利用し皆が把握できるようにしている。便秘傾向のある方は運動を促したり、医師や看護師に相談しながら支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	生活時間帯の関係上、基本的には入浴時間は決まっているが、入浴剤の使用など、入浴が楽しめるよう支援している。気分や体調等により入浴日を変更する等臨機応変に行えるよう心掛けています。	週2回、入浴の支援をしている。決められた曜日以外でも、利用者の必要に応じて清拭などをおこなっている。入浴剤の利用や季節のゆず湯など、入浴が楽しみとなるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	可能な限りその人のペースに合わせ、否定せず支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者情報、薬箱に薬名、効用を記載し把握に努めています。薬をセットして内服するまでに職員2名でダブルチェックを行っています。状態の変化も観察し報告したり、薬内容が変わった時はその都度周知しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時や入居者情報作成時、またその後もご家族から情報をいただき、その人にあった支援ができるよう職員間で共有しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事等で定期的に外出できる機会が持てるよう支援しています。また、天気の良い日は散歩や日光浴を行っています。	ホーム敷地内を散歩したり、ベンチで会話したりして外気浴をしている。ホーム内で窓越しに日光浴する利用者もいる。新型コロナウイルス感染防止で外出を制限しているため、ホーム内で体操したり、懐かしい歌を声に出して歌うなど、楽しく体を動かす機会を作っている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご家族に理解を求め、それぞれの能力に応じた支援をするよう心掛けています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時は随時対応しています。お手紙やプレゼントが届いた時も電話をしてお話していただけるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地がよく、落ち着いて過ごす事ができるように気温や湿度管理、定期的な清掃を行っています。季節感のある花を置いたり飾り付けをするなど工夫しています。	窓は広く室内で日光浴できる環境である。職員と利用者が一緒に掃除をおこない、床は綺麗に清掃されている。ゆったり過ごせるソファがあり、新聞を読んだり、テレビを見て過ごしている姿が見られた。利用者の安全のため、鉢植えを片づけるなどの配慮がなされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペース、リビングのソファで自由に過ごしていただいております。仲の良い方同士でお話しをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものをご用意していただくようご家族にお願いしている。それぞれ工夫されて生活されています。	ベッド、布団、家具など使い慣れたものを持ち込んで過ごしている。家族の写真を飾ったり、職員と一緒に作成した作品を飾っている利用者もいる。室内はシンプルで清潔な居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援の考え方を大切にし、トイレの位置や使用の仕方を説明し体得されています。歩行時も手すりを使用するなど安全に移動できるよう見守りを行っています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと